

府立中央聴覚支援学校



テーマ：主体的・対話的で深い学びの実現

概要

「わかる授業の実施に取り組んでいる」80%を目標に

平成 30 年度は、学校全体でアクティブラーニングの観点を踏まえた「主体的・対話的で深い学びの実現」という、3つの大きな柱をもとに研究を進めました。

パッケージ研修支援を活用して 2 年目となり、小学部では、発達段階や特性がそれぞれ異なる児童の実態を把握し、授業の中で一人ひとりの力を引き出す指導を実践していくことが求められることから、児童が自ら主体的に学ぼうとするために、教員は一人ひとりの個別の実態を踏まえた上で、どのような指導、支援を行うべきかの視点を中心とした授業づくりに取り組みました。

実施スケジュール

Research

6月中旬

研究部担当者、教頭、担当指導主事で、今後の進め方について打ち合わせ

Vision

6月19日(火)

全校(幼稚部・小学部・中学部・高等部・寄宿舎)教職員対象に全体会を開催 テーマは「主体的・対話的で深い学びの実現」

Plan

7月下旬～11月下旬

指導案を検討後、事前に授業を参観・授業者と打合せ

Do

9月19日(水)

研究授業・研究協議(1)

10月9日(火)

研究授業・研究協議(2)

12月12日(水)

研究授業・研究協議(3)

Check & Act

1月上旬

アンケート集約

全体会


6月19日 講義「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」

講師：教育センター支援教育推進室指導主事

新学習指導要領で示された、育成をめざす資質・能力を子どもたちが身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために求められている、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方について理解を深める機会としました。

グループワーク 「体育の授業における授業の工夫」

中央聴覚支援学校研究部

<p>展開を考えるにあたって…</p> <ul style="list-style-type: none"> 聴覚支援学校小学部に在籍する5年児童8名 教科および授業時間は、体育の45分間 晴天時の運動場での活動 単元名 「ボール運動」 単元目標 ボールを操作する基本的な技能を発展させる 授業者はT1とT2の合計2名 「①主体的な学び」「②対話的な学び」「③深い学び」の3つ全てを実現する展開 	<p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 3vs1の展開(2グループ) ドッジボールの標準的なボールを使用 おに役は、相手がボールを持っているときにうらうらとすることができない <p>本時の目標</p> <p>ボールを相手に取られないように、工夫して投げることができる</p> <p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段、手話と声で自分の考えを発言する様子が見られる ボール投げの苦手意識は見られない <p>活動イメージ</p> 
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

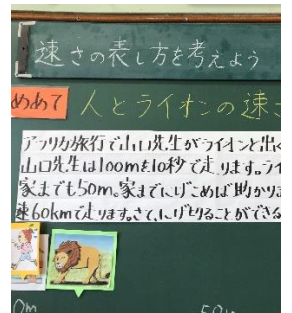
サポート部が企画した「グループワーク」では、実際の授業を想定し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業展開について、参加した教職員でアイデアなどを出し合い話しを深めました。

研究授業

(1)

学年・教科： 小学部 6年 「算数科」
 単元名： 「速さ」
 【教材名『速さの表し方を考えよう』（東京書籍 6年）】

研究協議のポイント 「既習の知識を活用し、子ども同士が考えを伝え合う場面の設定」
 興味を持てる設問を工夫し、対話的な授業の展開について、また、既習事項をどのように子どもたちに振り返らせるかについて協議しました。

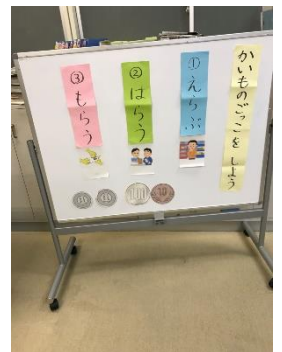


研究授業

(2)

学年・教科： 小学部 なかよしグループ 「生活単元学習」
 単元名： 「かいものをしよう（なかよし遠足）」

研究協議のポイント 「授業の目標を明確に伝える」
 子どもが授業の中で何を学ぶことができるのか、また見通しを持たせるとともに、授業の終わりに振り返ることの大切さについて協議しました。



研究授業

(3)

学年・教科： 小学部 1年 「国語科」
 単元名： 「ようすをおもいうかべながら よもう」
 【教材名『おとうとねずみちろ』
 （新編 あたらしいこころ 一年下 東京書籍）】

研究協議のポイント 「深み学びにつながったとらえることができる児童の姿とは」
 主体的・対話的な学びの過程を経て、どのような子どもの姿が見られれば「深い学び」となったと言えるのか、深い学びとは何か、について協議しました。



成果

授業づくりの前提として、「子ども一人ひとりの実態把握が重要」であることを改めて確認することができました。

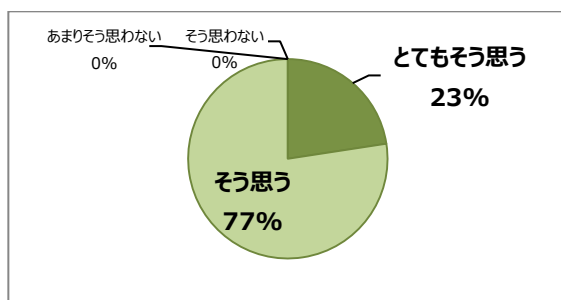
また、「主体的、対話的で深い学び」は、より良い授業づくり・授業改善のための1つの視点であり、子どもにつけたい力を明確にした目標を設定し、それらの視点を1つの単元（題材）の中で適切に設定することが大切であることを研究授業や協議を通して理解することができました。

さらに、研究協議では、特に深い学びとは何かについて協議がなされ、各授業での学びは教科を横断してつなぎ、結びつけ、関連付けていくことで子どもが実生活の場面で生かすことのできた時「深い学び」として実現しているのではないかと考えをまとめることができました。

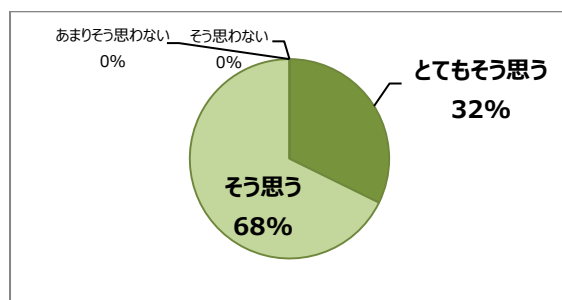
2年間にわたる授業改善のためのこれまでの研究の成果は、今後子ども一人ひとりが輝く授業実践として実を結ぶことと期待しています。

アンケート
結果

① 学校のニーズにできていた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- ・ 特に「深い学び」について、今まで知らなかったことを学ぶことができてよかったです。指導案の書き方も丁寧に教えていただき勉強になりました。
- ・ 授業を組み立てていく基本について、小学部全体が学べたと思う。また、センターから来ていただくことで、真剣さが増したと感じる。
- ・ 授業の改善について、アドバイスをいただいたり、考えたりするきっかけになってよかったです。指導案については、主担当者だけに任せるのではなく、チーム・ティーチングなので、みんなで考えて作っていかれたらと思いました。